

二町内の自治会新聞

二町内自治会二十年の歩み⑧

本町公園の花壇造り

二十年前小生が自治会長になった時、桜を初め山茶花、こぶし、ツツジ、サツキ等木に咲く花は、沢山ありましたが地に咲く花は、老人憩の家の周りに一つの花壇があるだけでした。

公園の周りに花壇を増やし、季節の花を咲かせようと考えました。

花壇の周りをどのようにするか色々と考えてみましたがレンガの場合本格的な工事となると資金・技術の面で相当難しいことが分かりました。

その様な時中ノ瀬にあるセメント工場に試験用のコンクリートのコーンがあることを知りまし。工場と掛け合いますとただで分けてくれということでした。

前自治会長の東時雄さ

んの軽トラックを借りて、何十回もコーンを運びました。

それから花壇づくりが始まりました。

地面を耕しコーンを埋めていきました。

大変な作業でしたが自治会の皆さんの働きで立派な花壇が出来上がりました。

次の年度からは、緑保全課から冬の花、夏の花を頂き、本町公園を季節の花で彩ることが出来ました。

初めは、公園愛護会で花植え作業を始めました。数年後湖東中学校の地域連携推進会議の中学生達が夏花の植えに参加するようになりました。中学

生と地域の交流が始まりました。今も二町内の行事として続いております。しかし花壇の周りのコーンは、十年は持ったと思いますが次第に抜けた

事務局
村上徹郎
TEL 368-5384
住所 健軍本町 26-3

り、子ども達の悪戯で外れたりして見苦しくなってきました。

その様な折、熊本県が緑化に関する事業に對して五十万円の助成金を出すことを知りました。

早速県庁に出向き、話を聞くことにしました。

予算は、三百万円で応募数が十二件ありました。

結局、書類審査により運よくパスしましたので五十万円をゲットすることが出来ました。

二町内自治会が打ち出した緑化活動のテーマは「緑のリサイクル」でした。落ち葉を堆肥に変える有効利用でした。

緑のリサイクル

落ち葉の季節になると四十五リットルビニール袋で二百袋、三百袋ごみステーションに出していました。大変勿体ないと思っていま

内容は、膨大な落ち葉をただ燃やすことなく堆肥舎を造り、花壇や樹木の肥料に変え、循環させて有効に使おうということでした。

それと合わせて傷んだ花壇のコーンに変わり、木製の枠の花壇に作り替えることでした。

この工事は、共同コンサルタント社長の佐伯和昭さんに御願いすることになりました。

今まで燃えるゴミで出していた落ち葉は、堆肥舎で堆肥となり花や樹木の肥しとなっております。

所謂、堆肥舎が緑のリサイクルを実現させてくれることになりました。

現在、世界は、脱炭素社会を目指しています。二町内の緑のリサイクル運動もささやかながら貢献しているものと思っております。

熊本市の公園は、一千を超えると言われていますがすべてが堆肥舎を造り緑のリサイクルを行えば相当な二酸化炭素の削減につながると思

新倉庫の落成

本町公園には、防災倉庫を初め大小六つの倉庫があります。

倉庫の中身は、自主防災に関する備品、リサイクルに関する資源ごみ、公園愛護会に関する器具、夏まつりに関する器具等が収められております。

中でも一番古い倉庫の傷みがひどく、ドアの開閉に苦労しておりました。自治会の特別会計が百万円以上になり、倉庫の建設に使ったらと言う意見が出てきました。

わが町内には、山内喜久雄さんと言う株式会社インザン鉄工所の社長さんがおられます。

町内餅つき大会の折糯米を寄贈して頂く山内さんの事です。

倉庫の話をする町内に寄贈しますということでした。見積もりを出して頂く二百二十万円もかかることが分かりました。

山内さんは、あくまでも寄贈するということでしたが結局半分を自治会が負担するということではまとまりました。

丈夫で、立派な倉庫が完成しました。倉庫は、町内

リサイクル倉庫として使うことにしました。新しい倉庫を前にして、リサイクル活動への意欲がわいてきました。町内を代表して山内さんへ衷心より感謝申し上げます。

本町公園の怪

① ミミズの死の行進

六月の初め頃地面に子ども達が棒切れで落書きしたような不規則の線が何本も出現します。よく見るとその先端に大きなミミズがいます。

力が尽き果てて干物になったのもいます。ミミズは、日陰の陰湿な場所を好みます。

しかも粘膜のような皮膚ですから直射日光に当たると一たまりも無く干からびてしまいます。

世代交代の儀式だと思えますがこのミミズの行動は理解できません。誰か知っておられる方は、居ませんか。

又小中学生にとっては、夏休みの自由研究として面白いテーマだと思えます。やってみませんか。